



# 東陽中だより

臨時号  
令和8年4月27日  
江東区立東陽中学校  
校長 小林 一志

## 《本校の教育目標》

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 1 よく考えすすんで学ぶ生徒 | 1 思いやりがあり協力する生徒 |
| 1 ねばり強く努力する生徒  | 1 健康で明るい生徒      |

## 開校記念日に向けて！歴史を知ろう！

校長 小林 一志

東陽中学校は5月1日が開校記念日となります。本校は、東京メトロ東西線開通後、東陽地区の人口急増により、深川第八中学校から分離新設し、昭和60年4月に開校しました。4月に開校したのですが、教育計画や施設等も整い、落ち着いた状態で教育活動に専念できるようになったのが5月になってからのことだったので、開校記念日は5月1日になりました。

その年の始業式は2年生146名（4学級）でスタート、入学式は1年生195名（5学級）が入学してきました。開校から3年目には614名、15学級の生徒が在籍していました。現在の2倍以上の生徒数ですね。

この地は、昔は貯木場だったらしくそこを埋め立て、東陽中学校が出来上がりました。

校章の由来は、地平線はるか、日の出を仰いだという東陽の地に生まれた東陽中を表したそうです。そして、学習の場としての学校をペンで、太陽が昇る様子を横線（地平線）で表しています。

太陽のようにたくましく、明るく温かみがあり、思いやりのある人間性豊かな生徒の育成の場を象徴しており、たいへんすてきな校章ですね。



校歌は昭和60年7月に制定されました。校歌は、東陽中に作詞家の宮沢章二氏が来校された際、校舎内外や正面玄関入口の壁にはめ込められた地球と宇宙を描いた陶板画や、校内での生徒の様子などを見学され、当時の校長先生から、かつては海であったこと等々の説明を受け、感動された中から生まれた校歌だったようです。

また、校歌の原点ともなった陶板画を作成した三沢憲司氏は、建設中の東陽中工事現場に立った時、ものすごいエネルギーを感じ、宇宙に飛び出していく石のイメージをもたれたそうです。そして、その石が広大な宇宙の中で、繋がり、輪になって結ばれる。…宇宙、石、エネルギー…、そして、輪、これらのイメージがモチーフとなって、東陽中のシンボルともいべき陶板画が誕生したのです。「石」に「意思」、石の「輪」に「和」という意味を掛け、広大な宇宙の中で一つになって強い意志で結ばれる、という東陽中へのメッセージとされたのです。

※校歌より抜粋

地球 宇宙 そして われら  
ひとりひとりの 未来を染めて  
東の空に 陽が昇る

※玄関正面にある陶板画



先人たちの東陽中学校の生徒たちに対する思いが、ものすごく伝わってきますね。5月1日開校記念日はそんな先人たちの思いを胸に過ごしてほしいと思います。

東陽中学校 今年で42歳になります！

